

長期欠席・不登校に係る

「ステップアップ・支援シート ver.笠岡」

記入例（小学生）

年 組 氏名

平常	状態0	家 庭	学校 集団生活を意識して		教室
欠席 遅刻	状態1				
自立応援室・保健室 又は欠席半分	状態2		総合教育支援センター 放課後登校 (時間・場所を分ける) ・自立応援室・保健室 (場所を分ける)		
学校以外の施設へ	状態3				
外出○	状態4		飛島相談室 My Place 「現状」 - 今年度は、ほとんど登校できていない。 - 外出はできるが、居場所としてつながっている場所はない。 - 友人と放課後に遊ぶこともある。 - 家でゲームをしている時間が長く、寝る時間が遅くなるなど、生活リズムが乱れている。 - 登校できなくなった理由はハッキリとしないが、集団が苦手で学力も低い。		
外出×	状態5		メタバースほか		
引きこもり	状態6				
(本人の思い)・学校に行くよりも家でゲームをしている方が楽しい。(ゲームで他校の人ともつながっている)・友人と外で体を動かして遊ぶことは楽しい。(年下の子が多い)					
(保護者の思い)・子供が登校していないことに困っているが、どうしたらいいかわからない。 *父親の関わりが見えない。学校との連携、相談はすべて母親。					

○対応や支援のターゲットと具体的な支援

*A・B両方の視点で、誰が、何をきっかけに、いつ、どこで何をするのかを具体的に考える。

- A 長期欠席・不登校の要因や背景への対応 → 専門家や関係機関とも連携して
 ・本人要因 ・家庭要因 ・学校要因
- B 休みの継続や登校のしにくさ(本人)への対応
 → 本人の「次のステップに進みたい」を引き出して

*どのような状態であっても、学校は定期的な家庭訪問を行い、児童生徒とのつながりを切らない。

対応	誰に	誰が	「支援策」何をきっかけに、いつ、どこで、何をするのか
A	保護者	担任・学年主任・SC	- 本人の現状や保護者の思いを確認する。 - 集団への不安もあるため、教育支援センターや自立応援室で少人数で対応できる居場所を紹介。 - SCにつなぎ、保護者の子育てに関する悩みや、今の困り感を聞き、学校と共有する。また、子供との関わり方について助言する。
	本人	SC	家庭訪問し本人の思いや学校に対する思いを聞き、学校と共有する。
B	本人	担任・教育支援センター相談員・自立応援室担当者	*<u>現時点の居場所</u>での支援「<u>Push</u>」と、<u>目標とする居場所</u>からの支援「<u>Pull</u>」の両方の視点で支援内容を決定して記入すること。*説明資料参照 - 自立応援室について説明し、見学を進め、放課後登校から始めることを提案。(Pull) - 学校に対するハードルがある場合は、まず総合教育支援センターへの通室を進める。(Pull) - 自立応援室や総合教育支援センターでは学習だけでなく、バドミントンや卓球など体を動かす活動もあることを伝え、週2日程度の登校や通室から進めることもできることを紹介。(Pull)
	保護者	保護者	*必要に応じて直接自立応援室担当者や総合教育支援センター相談員から直接説明をする場を作り、関係を作る。 - 学校や教育支援センターへの送迎。(Push) - 生活リズムの改善(食事の準備等)(Push)

長期欠席不登校対策に係る「ステップアップ支援シート Ver.2」について（説明）

1 シートの目的

対象児童生徒の現在の状態と居場所から、段階を一つでも上げるための支援策を検討するツール。

2 シートの活用について

- 視覚化された居場所が示されたシートを連絡会議等で共有する。
- 「誰に対して」「誰が」「何をきっかけに」「いつ」「どこで」「何をするのか」を具体的に検討する。
- 長期的な支援策ではなく、「一ヵ月間、一学期間等短期的な支援策の検討」をする。
- 過去の欠席日数や家庭の状況等の情報が必要な場合は、アセスメントシートを併用する。
- 検討したシートは経過も含め、変容を後から確認出来るよう、データ又は紙媒体で保存する。
- 次のステップの支援策を検討する場合や支援がうまくいかず、他の支援方法を検討する場合は別のシートを使用する。

3 活用方法の手順

「目標とする居場所の設定」

- シートの左側の表に現在の状態と居場所を蛍光ペン等でチェックする。
- 現在の居場所から目標とする居場所へ矢印を引っ張る。矢印は複数あってもよい。
- シート左側の「現状」には、本人の現在の状況や欠席の要因・背景を記入する。また、本人の趣味や特技、友人関係、関係機関等とのつながり、会議の中で出たキーワードとなることなども自由にメモする。

「本人および保護者の思いの確認」

- 現在の状況に対する本人及び保護者の思いを記入する。
- 学校が立てる支援目標（短期）と保護者・本人の思いをリンクさせる。

「A・B二つの視点から、目標とする居場所へ向けた具体的な支援策の検討」

◆A・B二つの視点

A 対応：長期欠席・不登校の要因や背景への対応
B 対応：登校のしにくさ（本人）への対応

* 支援策は支援対象者の状況によって A、B のどちらかだけになっても構わない。

- 下にある「支援の為のリソース（参考）」に記載している、学校内外で考えられるリソースの中から、支援対象者にとって有効と思われるものを使って支援策を検討し、シートの右側に記入する。

- B 対応の支援策を検討する際には、Push・Pull 両方の視点からのアクションを相互に連動させる。

Pull（目標とする居場所からの支援）
Push（現時点の居場所からの支援）

- 曖昧な支援策ではなく、具体的に「誰に対して」「誰が」「何をきっかけに」「いつ」「どこで」「何をするのか」を検討する。

4 その他

- 担任だけが関わるのではなく、関係ある教職員や関係機関等が有効に関わる。
- 支援シートに記載している居場所や下記の支援の為のリソースは、あくまでも参考である。地域によって実態が違う為、学校ごとに変更を加えてもよい。

「支援の為のリソース（参考）」

行事等	・運動会（体育会） ・学芸会（文化祭） ・修学旅行 ・定期テスト ・クラス替え ・部活動の大会（コンクール）	
活動内容	・学習 ・運動 ・遊技 ・ICT ・その他	
頻度	・毎日 ・週〇〇日 ・月〇〇日	
時間	・朝 ・昼 ・放課後 ・〇〇時間 ・午前 ・午後	
場所	学校	・教室 ・保健室 ・自立応援室 ・図書館 ・支援学級 ・グラウンド ・体育館
	学校外	・教育支援センター ・フリースクール ・公民館 ・公園 ・放課後等デイサービス ・不登校親の会
本人の興味等	・部活 ・趣味 ・特技 ・習い事	
人	家庭	・父母 ・きょうだい ・祖父母 ・叔父母 ・いとこ
	学校	・担任 ・養護教諭 ・管理職 ・自立応援室担当教員 ・生徒指導担当 ・特別支援 Co ・教科担任 ・部活顧問 ・登校支援員 ・支援員（ ） ・友人
	専門家	・SC ・SSW ・民生委員 ・主任児童委員 ・愛育委員
	施設職員等	・教育支援センター ・フリースクール ・公民館 ・放課後等デイサービス ・不登校親の会
関係機関	・教育委員会 ・市町村福祉部局 ・児童相談所 ・保健所	

* 「支援の為のリソース」は各校で地域にあるリソースに打ちかえて活用してください。